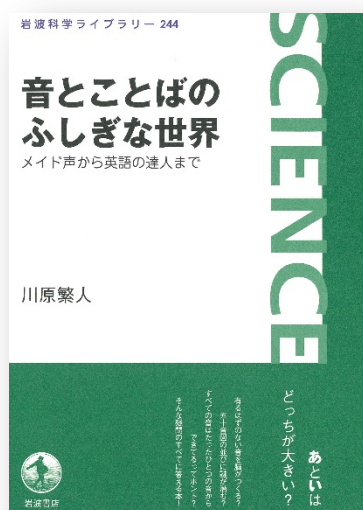


〈岩波科学ライブラリー〉

川原繁人 著

音とことばのふしぎな世界

メイド声から英語の達人まで



B6判・並製カバー／122頁／本体1,200円

ISBN 978-4-00-0029644-1

2015年11月5日発売

導入として、「音象徴」の話題を取り上げます。よく知られているように、あちこち尖った図形と丸い曲線で囲まれた図形の2つが与えられて、その図形に「タケテ」か「マルマ」かのどちらかの名前を付けるとしたら、と尋ねられるとほとんどの人の答えが一致するといいます。母語が何であるかにかかわらず一致するというから驚きです。なぜでしょうか。それを明らかにするのが「音声学」という学問分野の目的の1つでもあります。

音声学は、大きく3つの分野からなります。1つは、どのように口を動かして音を出すのかを研究する「調音音声学」、2つめに、口の動きがどのような空気の振動に変換されるのかを分析する「音響音声学」、そして3つめに、その空気の振動がどのように理解されるのかを調べる「知覚音声学」です。

本書は、身近な例を使って、これらの学問の特色と目的をわかりやすく紹介します。

◎本の中で話題にした映像・音声を岩波書店の本書のホームページから視聴できるようにしてあります (<http://www.iwanami.co.jp/029644m>)。授業などで、デモンストレーションとして使用できます。

川原繁人 (かわはら しげと)

2002年国際基督教大学学士(教養)、2007年University of Massachusetts, Amherst 博士(言語学)。ジョージア大学、ラトガーズ大学助教授を経て、現職の慶應義塾大学言語文化研究所准教授。専門は音声学・実験音韻論および一般言語学。最近の研究テーマは音声実験による音韻理論への貢献、音声学を通しての社会貢献、幼児の言語習得など。

◎目次

プロローグ——日本人は英語が苦手？

第1章 「マル」と「ミル」はどちらが大きい？——音象徴

[a] は大きくて [i] は小さい？／「ゴジラ」が「コシラ」だったら？／「濁音＝大きい」／ケーラーの不思議な図／名前で見つ目の魅力も変わってしまう？／「タ行」は男の子の音、「な行」は女の子の音？／「タ行」は「ツんな」名前、「な行」は「萌な」名前？／本当にツンツンしている「タ行」の音

第2章 「あかさたな」とサンスクリット研究——音声学のはじまり

音声学の始まり／調音点と調音法／「ひよこがぴよこ」で「母がパパ」？／五十音図に隠された規則性／日本語のラッパーは音声学者？／「あいうえお」にも意味がある／顔文字の発明者は音声学者？

第3章 世界中のことばを記録する方法——記述音声学

世界のすべての音を記録する国際音声記号／『マイ・フェア・レディ』と音声学の意外なつながり／アフリカの奥地からアマゾンの奥地まで／舌打ちで話すことば、子音だけで話すことば／日本の方言学／言語聴覚士にも必須の音声記号

第4章 音を目で見る——調音音声学

MRI で [r] と [l] の違いを目で見よう／あなたは「巻く」派？「巻かない」派？／“鼻にかかった音” はどんな音？／MRI で日本語の母音をチェック！／舌の動きはエコー検査で！／EMA と顎と顔文字と／声帯の動きを首の外側から観察／調音点・調音法をもっと正確に！

第5章 声紋分析官への道——音響音声学

実は大事な三角関数／フーリエ解析／「あいうえお」の声紋とは？／声紋から探る [r] と [l] の違い／どうして電話の相手の声を間違える？／秋葉原のメイド声ってどんな声？／アメリカ人だって、外国語習得は苦手／音響分析なら何でもお任せ／「高いのは小さく、低いのは大きい」？／「はい、チーズ！」の「チーズ」はどこから？

第6章 ないはずの音が聞こえる日本人——知覚音声学

[r] と [l] ／カテゴリー知覚／[ebuzo] と [ebzo] が同じに聞こえる日本人／脳が音をでっちあげる？／日本人だけじゃない／赤ちゃんは言語習得の天才／赤ちゃんはテレビで音は学ばない／完璧な外国語習得は無理？

第7章 社会との接点を目指して——福祉音声学

消滅危機言語を救え！／現代社会に根付いている音声工学の技術／より効率的な外国語学習方法を目指して／失われる声を救う

エピローグ——さらなる視界へ

.....

◎本書に関するお問合せは、下記までお願いいたします。

岩波書店 編集局自然科学書編集部 (03 5210 4070 shizenkagaku@iwanami.co.jp)